

# 「藻場・水産資源マップ作成調査」の概要について

桐原 慎二・仲村 俊毅

本調査は、青森県沿岸の底質、藻場の分布及びアワビ、ウニ、ナマコ等有用定着性資源の状況を把握することを目的に、「緊急地域雇用対策事業」の一環として行ったものであり、平成11年度は、平館村から脇野沢村沿岸に至る陸奥湾沿岸について調査を行った。

## 調査の概要

海岸線沿いに約 500m間隔で調査線を設け、各調査線ごとにおおむね水深 2.5m、5 m、10mの地点に潜水し、半径 5mの海底を観察し岩盤、転石、礫、砂、泥に底質を区分し、特に海底に浮泥が見られた場合はその厚さを測った。砂や泥が卓越した場では、鉄筋を差し込んで深さ 1 m以内の範囲で砂泥層の厚さを求めるとともに、約50gを採取し粒度組成を、約 5gを採取し 110℃下で13時間加熱後の重量減少割合から水分量を、600℃下で 2.5時間加熱後の重量減少割合から強熱減量を求めた。藻場の分布は、生育するすべての種類の海藻について各々25cm四方の枠を用いて採取し、種ごとに湿重量を求めると共に、コンブ目植物、ヒバマタ目植物については個体数を求めた、定着性の水産資源は、1 m四方の枠を用いて2枠分を採取し、種ごとに個体数と湿重量を測定した。各調査地点で海底の様子を写真に撮影するとともに、GPS位置測定器を用い緯度、経度を記録した。

## 成果の利用

調査は、表に示すとおり、10市町村にある12漁業協同組合の沿岸計 406調査線上に設定した1227地点で実施した。各調査地点の海底の状況及び主要な底生生物の分布状況を示した泡グラフを漁業協同組合ごとにCDrom にまとめ、関係機関に配布した。

なお、調査は各漁業協同組合の管理下にある共同漁業権漁場内の地先資源の詳細に関するものであるため、各漁業協同組合と協議の結果、情報の誤用、悪用によって漁業者が損害を被ることのないよう、調査結果を印刷公表しないこととしている。したがって、本報告においては調査の概要を記すにとどめた。また、調査結果の閲覧にあたっては、該当する漁業協同組合の長の承認を必要とすることを付記する。

表 漁業協同組合ごとの調査線及び調査地点の数

市町村名	漁業協同組合名	調査線数	調査地点数
平館村	平館村	33	99
蟹田町	蟹田町	12	36
蓬田村	蓬田村	18	58
青森市	後潟	13	39
	青森市	29	85
平内町	平内町	85	255
野辺地町	野辺地町	41	123
横浜町	横浜町	43	129
むつ市	むつ市	53	159
	田名部	12	36
川内町	川内町	39	125
脇野沢村	脇野沢村	28	83
計		406	1,227